



**philosophy for children**  
こどものための哲学



ワークショップ  
「P4C in School」  
8/6  
2016

神戸大学附属中等教育学校  
KP ルーム

内容

受付開始 12:30

13:00 ~ 13:15 趣旨説明

13:15 ~ 14:45 コミュニティボールを作ろう

15:00 ~ 16:30 P4C をやってみたら

(実際／効果／評価)

※体験型ですので実際に対話しながら進めます。

# 報告

## 趣旨説明（榊形）



今回のワークショップの趣旨について、榊形（武庫川女子大学・大阪教育大学名誉教授）より説明。

要旨：昨年に引き続いて2回目のワークショップである。昨年は研究者の参加者が多かった<sup>1</sup>が、今年度は初等・中等教育現場の先生方に多く参加頂いた。

「コミュニティボールを作ろう」では、金澤（西宮市立高木小学校教諭）が、コミュニティボールの作成からP4Cの実践までを行う。

「P4Cをやってみたら」では、有賀先生（西宮市立夙川小学校教諭）・東村先生（西宮市立高木小学校教諭）・大島先生（西宮市立甲陽園小学校教諭）中川（神戸大附属中等教育学校教諭）による実践報告。

「評価」についての試みを榊形が紹介する。

その後、「質疑応答」という流れで本日のワークショップを行う。

## コミュニティボールを作ろう（金澤）



### 1 アイスブレイク

参加者が誕生日を確認しながら1～12月順に席を移動する。

### 2 レジュメに沿ってP4C実践

#### 2-1 輪になろう！

輪になることでお互いの顔が確認できる。教師も参加者として、児童／生徒に関係性に近い所に身をおく。

#### 2-2 コミュニティボールをつくる

毛糸を巻きながら、参加者各自が現在「はまっているもの」というテーマに沿って自己紹介をする。



<sup>1</sup> 関西倫理学会のシンポジウムを控えていたこともあり、研究者への広報的性格を持たせる必要もあった。

コミュニティボールは、それを持っている人しか話せない。「ボールを持っている人しか話せない」という対話における「決めごと」のためのツールでもあり、ハワイ型 P4C の「知的に安全な場」を象徴するツールでもある。アメリカ先住民の「トーキング・スティック」にルーツがあるようだ。

### 2-3 みんなで問いをつくらう！／出てきた問いを吟味して選ぼう

絵本や物語、絵画などの素材に拠って自由に問いを出し合って「問い」を決める方法＝「Plain Vanilla」プレーンなバニラ味のアイスクリームに由来する最もシンプルな形の P4C。

- ①人間はなぜ何かにハマるのか
- ②勉強させるのと教えるのは違うのか
- ③学校はつらい場所か
- ④何で夏休みの期間は違うのか

の4つの問いが参加者から提出され、「学校はつらい場所か？」が多数決によって選ばれた。



### 2-4 みんなで選んだ問いで P4C／今日の対話はどうだった？みんなで手をあげよう。

「問い」を提出した人の提案理由説明の後に「対話」。その後、付箋（ポストイット）に「よい発言をした人」に対するその評価理由を書き、その人に渡すという評価実践を行う。

「ジャーナル」というフォームによる自己評価の説明の紹介を受けた後、全員の挙手に拠る評価が行われた。



## P4C をやってみたらー実践報告

### 1. 2015 年度夙川小学校 4 年生による p4c について

有賀慎平先生

事例と「ジャーナル」の実物（児童作成分）の紹介



### 2. コミュニティボールを使って

東村綾美先生

絵本を使って（『大きな木』）

ふれあい読書会

保護者懇談会



### 3. 大谷美術館での鑑賞+P4C・実践報告

大島麻子先生



### 4. P4C で扱う問いの例

+

ポスターによる表現の年次変化の紹介

中川

### 5. P4C の評価

梶形

エクセルを利用して、こどもたちによる自己評価をレーダーチャート<sup>2</sup> によって可視化する試みの紹介。

「可視化」することで評価結果の共有や他教科／成績との相関に言及できるのではないかと。

## 質疑応答

評価についての質疑が集中する。



以上

<sup>2</sup> Web 上で入手できる汎用性の高いフリーウェアを援用。